

1 単元名 場面に応じて話そう

2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元では、単元を貫く言語活動として、「時間や場の条件に合わせてスピーチをする」ことを位置付けた。条件として、後輩へ職場体験についてのスピーチ、地域の方への学校紹介、面接での自己PRの三つの場面を設定して行う。それぞれ条件を想定してスピーチの練習をしたり、意見交換をしたりすることで、「場の状況や相手の様子に応じて話すとともに、敬語を適切に使うこと」(A話すこと・聞くことイ)を確実に実現できるようにしている。

3 単元について

(1) 生徒観

前単元では、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えや表現に生かすことの育成をねらい、複数の意見やスピーチを聞いて評価する言語活動を行った。その学習において、生徒は、結論だけではなく、根拠や立場の違いに注目して聞くことができるようになった。しかし、話すことに対しては抵抗を感じている生徒が多い。特に、場の状況や相手に応じて適切な敬語や言葉遣いを用いて話すことが苦手である。

(2) 教材観

本教材は、中学校学習指導要領解説国語編第3学年の(A話すこと・聞くことア)「社会生活の中から話題を決め、自分の経験や知識を整理して考えをまとめ、語句や文を効果的に使い、資料などを活用して説得力のある話をする。」と、(イ)「場の状況や相手の様子に応じて話すとともに、敬語を適切に使うこと。」を受けて設定されている。前半は、人前で話す際、第一に注意を払うことが「聞き手の関心」であることを押さえた上で、社会生活の中から話題を選ぶ際の観点と方法を学ぶ。後半は、目的や相手、時間に応じて複数のスピーチとして話し分ける体験をする。条件を指示したカードを何回か引くというゲーム性を取り入れながら、ペアやグループで全員が練習をすることを通して、場面に応じて話す力を身に付けることができる教材である。

(3) 指導観

話すことに抵抗を感じている生徒が多いため、事前に、適切な敬語や言葉遣いについて理解する必要があると考える。そこで、まず、文法の窓1「間違いやすい敬語」において、スピーチを行う上で必要な敬語の種類を復習し、その使い分けや適切な使い方を理解し、反復練習を行う。次に、自分の体験を振り返って話す材料を集める学習では、ウェビングやKJ法などを活用して、自分の経験や知識を整理する。場の状況や相手の様子に応じて話す内容を考える際には、目上の人や後輩に対して話す場合など、それぞれの条件に応じて敬語を使い分けられるような場面設定の工夫をする。また、生徒の視覚に訴える掲示物など、教材・教具の工夫を図り、生徒が主体的に取り組めるようにする。最後に、スピーチ練習を行い、発表会を開く。学習形態を工夫し、ペアからグループ、全体という流れで段階的に学習することで、敬語を適切に使って話す力を確実に育てていく。スピーチ練習においては、ICTを有効活用し、お互いの意見交換が活発になるようにしていく。

4 単元の目標

- 社会生活の中的话题に関心をもち、スピーチを通して場にふさわしい話の内容と表現について意欲的に考え、意見交換しようとする。(関心・意欲・態度)
- 経験や知識を整理し、目的や相手、時間を意識して、話す内容や話し方を考えることができる。(話すこと・聞くこと)
- 敬語を適切に使い、場の状況や相手に応じた話し方をすることができる。(話すこと・聞くこと)
- 社会生活における敬語の適切な使い方について理解することができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> 社会生活の中的话题に関心を持ち、スピーチを通して場にふさわしい話の内容と表現について意欲的に考え、意見交換しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 経験や知識を整理し、目的や相手、時間を意識して話す内容や話し方を考えている。 敬語を適切に使い、場の状況や相手に応じた話し方をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活における敬語の適切な使い方について理解している。

6 単元の指導計画（5時間扱い）

	時	主な学習活動	主な評価
第1次	1	<ul style="list-style-type: none"> 間違いやすい敬語の使い方を知り、敬語の間違いを正しく直す。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活における敬語の適切な使い方について理解している。 (言語についての知識・理解・技能)
第2次	1	<ul style="list-style-type: none"> 場にふさわしい内容の話し方を練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活の中的话题に関心を持ち、場にふさわしい話の内容と表現について意欲的に考え、意見交換しようとしている。 (国語への関心・意欲・態度)
	2	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体験を振り返って話す材料を集め、場面に応じた内容や話し方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 経験や知識を整理し、目的や相手、時間を意識して話す内容や話し方を考えている。 (話す・聞く能力)
	3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな場面に応じたスピーチの練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的や相手、時間などの条件に応じて話す内容や話し方を考えてスピーチしている。 (話す・聞く能力)
第3次	1	<ul style="list-style-type: none"> 全体でスピーチを発表し、意見を交換し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 敬語を適切に使い、場の状況や相手に応じた話し方をしている。 (話す・聞く能力)

7 本時の学習

(1) 目標

さまざまな場面に応じたスピーチの練習を通して、目的や相手、時間などの条件に応じて話す内容や話し方を考えることができる。

(2) 準備・資料

プロジェクター、タブレット、ストップウォッチ、学習計画表、条件カード、ワークシート

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>目的や相手、時間などの条件に応じて話せる、スピーチ名人を目指そう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> バッドモデルやグッドモデルを提示し、学習内容と学習方法を確かめることによって、本時の活動の見通しがもてるようにする。 スピーチ名人の観点を、映像から生徒に見付けさせることで、本時の学習にスムーズに入れるようにする。 条件カードを提示し、本時の場面設定が確認できるようにする。
<p>2 グループになり、スピーチの練習をする。 (条件カード)</p> <ul style="list-style-type: none"> 後輩へ職場体験のスピーチ 1分 後輩へ職場体験のスピーチ 2分 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見をうまく話すことができない生徒には、ワークシートを参考に、何を話したらよいか、スピーチの目的を明確にして話すよう助言する。

- ・地域の方への学校紹介 1分
- ・地域の方への学校紹介 2分
- ・高校での自己PR 1分
- ・高校での自己PR 2分

〈予想される反応〉

- ・自分の意見をうまく話すことができない。
- ・相手や時間を考えて話すことが難しい。
- ・敬語が適切に使えない。
- ・相手の関心を高めたり時間を調節したりして話すことができる。
- ・相手に応じて敬語を使い分けられる。
- ・全員がどの場面でもうまくスピーチができる。

3 グループでこれまでのスピーチを評価し合い、時間まで繰り返し練習する。

- ・分かりやすい言葉で話した方がよい。
- ・話の途中で問いかけをしていることが分かりやすい。
- ・聞き手に質問を促すこともよい。
- ・時間が余ったので、もう少し具体的に話した方がよい。
- ・目上の人や面接では敬語をしっかりと使うとよい。

4 本時の学習を振り返る。

- ・聞き手の反応を見て、言い換えたり、補足したりするとよい。
- ・2分で話す時は、活動の様子を詳しく説明する。
- ・相手に応じて、適切な敬語を使う必要がある。
- ・内容によっては、自分の体験から感じたことを通して話するとよい。

- ・相手を意識して話すことができない生徒には、メモを見ながらでもよいので、少しでも相手の方を向いて、聞き手の関心を考えて話すように助言する。

- ・時間が余る生徒には、自分の体験からどう思ったのかを詳しく伝えるよう助言する。また、時間が過ぎてしまう生徒には、その中で一番伝えたいことに絞って話すよう助言する。
- ・敬語でつまづいている生徒には、敬語の表を提示し、正しい使い方を確認できるようにする。
- ・全員がうまくスピーチできるグループには、タブレットで撮影して確かめ、より分かりやすい言葉や表現の仕方がないか考えられるよう声をかける。

- ・ワークシートの相互評価の欄を活用することで、どのような点がよかったのかを整理できるようにする。
- ・互いの評価についてグループで話し合うよう指示を出し、他者の意見を参考にして、自分のスピーチのどこを改善すればよいかを考えられるようにする。

(評) さまざまな場面に応じたスピーチの練習を通して、目的や相手、時間などの条件に応じて話す内容や話し方を考えている。
〔話・聞〕(ワークシート・観察)

- ・よい点がなかなか見つからない場合には、それぞれの話し方の違いを考えるよう助言し、相手に応じて、敬語を入れる必要性に気が付けるようにする。
- ・本時でできるようになったことをワークシートに書いて発表することで、学習のまとめを共有できるようにする。
- ・敬語について振り返りが出ない時は、教師が問い直し、正しい敬語の使い方について確認できるようにする。
- ・よくできたグループの映像を全員で鑑賞することにより、目的や相手、時間に応じた話し方を確認できるようにする。
- ・次時は、全体でのスピーチであることを確認し、優れた点は取り入れて、よりよい話し方に改善していくよう助言する。